

まちのスポーツ振興を担う！

想いが重なったクラブ発足

今治しまなみスポーツクラブの活動理念は「今治地域の生活者の人たちがスポーツを通じて豊かな心、思いやりのある心、健康な体を育てられるスポーツクラブをつくらう。今治しまなみスポーツクラブがあるから今治で暮らそうと多くの人に思ってもらえるスポーツクラブにしよう」です。このような想いが重なって、平成18年6月にNPO法人格を取得し、NPO今治しまなみスポーツクラブ（以下、クラブとする）として本格的に活動をスタートさせました。

指定管理者制度の導入

今治市では社会体育施設において、平成19年度から指定管理者制度が導入され、当初からクラブが指定を受けました。1期目は、平成19年度から5年間、旧市内の中央体育館、球場、テニスコート、プール、学校夜間照明施設など、24ヶ所。現在は2期目に入っており、平成24年度から5年間、旧市内と越智郡陸地部（朝倉、大西、菊間、玉川、波方）施設の一括公募となり、旧市内と各地域の体育施設全44カ所の管理運営を

行っています。

指定管理者制度を通じて、財源を確保し、雇用につながりました。地域のための公共施設を地域組織が主体となって地域住民が管理する形で、われわれの理念にもとづいて、無駄を省き、地域住民の目線で新しいサービスを導入してきました。

教室の開催については、以前は20教室実施されていたものを、現在では55教室開催しています。0歳から高齢者までが、それぞれの志向に合わせて参加できる教室を企画し、多くの方が日常的にスポーツに親しめる環境づくりを行っています。

また、夏休みや冬休みには小学生を対象に、特別企画としてレッツエンジョイスターデイ&スポーツ教室を実施しています。これは、期間中、多種目のスポーツに触れる



夏休み特別企画・ボート教室

機会として、平成24年度の夏休みは14種目を、卓球やバレーボールは種目協会に、ボートは今治造船ボート部にというように、それぞれ講師をお願いし、地元の指導者やチームと連携する形で実施しています。半分は勉強する時間も設けていることから保護者からも好評で、募集開始その日に定員に達してしまいう人気教室となっています。

指定管理者制度を通じて、行政との関係ができ、その他の面でも連携した取り組みを行っています。高齢者を対象とした寿健康体操教室は、市内5会場で開催して高齢者の健康づくりを目的に実施しています。この事業は、市の高齢介護課から委託を受け、伯方や宮窪などクラブの財源だけでは難しい島嶼部でも教室を開催しています。また、地域行事についても、今治シテイマラソンの事務局業務、大西地域運動会の企画や当



NPO今治しまなみ
スポーツクラブ
クラブマネージャー
伊賀上 哲旭



寿健康体操（伯方教室）

日の運営、老人クラブ運動会の進行役など、行政や地域団体と積極的に関わりながら、それぞれに合った形で連携しています。

子どもたちに夢を

平成23、24年度と文部科学省の選定を受けて「拠点クラブ」として委託事業を実施しています。1つは、小学校体育活動コーディネーター派遣事業として、小学校の体育授業にクラブの指導者を派遣しています。2年間で6校に8人派遣し、先生1人では目が届かないところを補助したり、見本を見せるなど、先生と協力しながら実施しています。

もう1つは、夢の懸け橋プロジェクトとして、地元や地元ゆかりのあるトップアスリートと子どもたちの交流の機会をつくっています。今治に拠点を置く日本食研トライアスロン部や今治造船ボート部、FC今治（サッカー）、今治オレンジブロッサム（バス



小学校体育授業へ指導者派遣

ケット）といったチームをはじめ、愛媛マシナリパイレーツや愛媛FC、さらにはシュライカー大阪（フットサル）や広島メイトルレッズ（ハンドボール）といった全国のチームにも依頼し、学校には2時間をとっていただき、その日はトップアスリートが講義と実技を交えて、夢やあこがれについての授業を行います。子どもたちにとっては、世界や全国で活躍するアスリートに触れる機会に、トップアスリートにとつては地域貢献の機会となり、クラブも含め3者それぞれにメリットのある事業となっています。クラブがつなぎ役となることで、一過性では終わらず、例

えばシュライカー大阪は、毎年、今治で強化キャンプと公式戦を開催、クラブの子どもたちや地元のジュニアチームを対象にクリニクなども実施してもらっています。こうした関係を築き、継続し発展的に取り組めることも地域に



夢の懸け橋PJ・FC今治



夢の懸け橋PJ・日本食研トライアスロン部

21世紀型のスポーツ振興

根付いたクラブの特徴だと考えています。

今治市ではスポーツ振興計画が策定され、その中でスポーツクラブの役割が明記されており、活動を通じて行政とは良い関係を築いてきています。自治体における財政状況が厳しい中、公共施設等のハード面における地域資源を最大限活かし、継続する仕組みづくりを行政と地域住民がともに考えていくことが求められています。シンブルに言えば、今まで行政が行っていたことを地域住民が行うということ。スポーツ振興において地域に根付いたスポーツクラブはその実働を担う存在であり、その存在はスポーツだけにとどまらず、今後の地域振興において不可欠なものとなると考えています。

活動を通じて、たくさんの方々の声かけられるようになり、つながりを実感するとともに、今後もつなぎ役となり、つながりが輪となつて、多くの方と一緒に活動をしていきたいと考えています。